

南三陸町総合計画審議会令和5年度第5回専門委員会議 会議の概要

- 1 日 時：令和5年8月27日（木）午後6時から午後7時まで
- 2 場 所：南三陸町役場2階会議室
- 3 出席委員：11名
及川和人委員、小野寺成明委員、工藤大樹委員、工藤泰彦委員、佐藤久一郎委員、高橋裕香里委員、高橋吏佳委員、田中郁子委員、芳賀英則委員、畠山扶美夫委員、吉田信吾委員（氏名カナ順）
- 4 欠席委員：3名
伊澤仁寿委員、星一敏委員、山内義申委員（氏名カナ順）
- 5 事務局：企画課 課長 岩淵武久
企画課 課長補佐兼政策調整係長 阿部好伸
企画課 佐藤悠
- 6 オブザーバー ランドブレイン株式会社仙台事務所 姜守範
- 7 会議次第
 - 1 開会
 - 2 内容
 - (1) 住民懇談会について
 - (2) 総合計画基本構想「まちの将来像」について
 - (3) 今後の予定等について
 - 3 閉会

午後6時開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただ今から南三陸町総合計画審議会令和5年度第5回専門委員会議を開会いたします。本日の席次は、名簿順となっておりますので、あらかじめご了承ください。

早速ですが、1点目は、住民懇談会の報告となります。皆様のお手元に配付をしております、「資料1」をご覧ください。住民懇談会は8月7日から9日の3日間の日程で、志津川、戸倉、入谷、歌津の4地区の公民館を会場として、開催いたしました。懇談会では、A3のカラー資料と町のホームページでも公表している住民アンケート結果を使用しました。

懇談会の内容としては、「まちづくりの課題等について」、「人口見通し（将来人口）について」、「南三陸町第3次総合計画について（まちづくりの基本的な方針）」といったところを、ご参加いただいた方々に説明をいたしました。出席者は、4会場で計31名でした。出席者から挙げられた意見等については、この場で抜粋してお伝えします。

まちづくりの課題等については、「町民アンケートの回収率が低く、アンケートに回答した方の多くが70歳以上であることから、若い世代の関心が薄い」、人口見通し（将来人口）については、「令和50年に7,035人を目指すのであれば、住みたいまちをつくるのが大前提になってくるので、次期総合計画には、抽象的でも構わないので、将来こういったまちを作っていくといった文言を入れて欲しい」、計画全般については、「森里海ひといのちめぐるまち」について、他所の人

から通常この「里」という言葉に人が住んでいる意味が入っているので、この「里」には人がいないのかという指摘を受けたことがある」という意見や「リーディングプロジェクトの中で、来たくなる・集うまちづくりとして、観光振興、交流・関係人口の拡大とあるが、出生率が上がってこない状況の中で、移住定住をどうとらえているのか」、個別施策については、「企業誘致は難しいと思うが、その中で産業経済を活性化させる手法はあるのか」、「一次産業の担い手の確保、育成に力を入れてもらいたい」、「無形文化財の踊りを行おうとしても、小学生・中学生はスポ少等の行事と重なり、参加率が悪い。伝統文化の継承の取組みとして、教育委員会が主体となり、各地区の伝統行事を学校で継承していく取組みができないか検討してもらいたい」との意見がありました。

(委員)

全体的に出席者が少ないと感じる。周知方法等について教えて欲しい。

(事務局)

周知方法については、広報誌への掲載と各地区単位で防災無線の放送を行いました。また、併せて、行政区長あてに懇談会の開催文書を送付しております。

(委員)

今回の出席者は、若い世代はいなかったのか。

(事務局)

60、70代の方がほとんどでした。

(委員)

若い世代があまり関心を持っていないと感じる。若い世代の方々の意見も聞く機会があれば、尚よかったと感じている。

(委員)

懇談会で、「どの地区・部落も高齢者が多い」という意見が挙げられたことについて、行政区長の年齢層もそれぞれ違うと思うが、自治会の役員自体も高齢となってきたと感じた。

(委員)

この町の将来を考えた意見よりも、現在抱えている問題についての意見が多かったと感じる。

(委員)

「若い世代の関心が薄い」という意見があったが、これは全町民が感じていることだと思う。この専門委員会においても、若い世代の委員がいた方がより良い意見が出るのではないか。

(事務局)

資料には記載はしていませんが、志津川会場で出た意見になりますが、65歳以上が高齢者というくくりになってくるが、65歳を超えていても、元気に働いている方がいるし、地域で活躍を

している方もいることから、高齢者というくくりで物事を考えることについてはあまりよくないのではないかという話がありました。

(委員)

これまでの会話の趣旨は、懇談会の感想についてという認識でよいか。

(事務局)

はい。懇談会で挙げられた意見について、町の個別施策に盛り込むことが可能かどうかということとを精査し、活用していきたいと考えております。

次期総合計画策定に向けて、今後進めなければいけない手続として、パブリックコメントが残っております。計画の素案が完成し、その後に町民の方々から意見をいただくものとなります。これまでの一般的なパブリックコメントの流れは、素案を提示して、意見を募集し、意見があればそれに回答をする仕組みです。その際に資料の見せ方ということも考えなければなりません。素案を出すだけでなく、その中でも計画のメインを強調したり、要約・要点はどのような考え方で整理をしたかということを内部で検討したいと思います。

内容の2点目となりますが、皆様のお手元に配付をしている「資料2」をご覧ください。7月末に開催をいたしました、第3回総合計画審議会で資料としてお示しした町の将来像になります。

(イメージ1) 「ひと 森里海 つながりあうまち 南三陸」

(イメージ2) 「ひと 森里海 いのちめぐるまち 南三陸」

(イメージ3) 「ひとと自然が輝き 未来へつながるまち 南三陸」

(イメージ4) 「ひとと自然が輝き 未来へ歩む 南三陸」

イメージは4つあります。審議会の委員の皆様からいただいた意見を紹介いたします。

(意見1)

イメージ2がいいと思う。いのちめぐるは人だけでなく、自然にもいのちはあるし、未来に向かって代々繋がっていくということについても含まれている。将来像にあっていると思う。

(意見2)

冒頭に「ひと 森里海」がつくのがいいと思う。イメージ2もいいし、イメージ4の未来へ歩むという言葉が入ってもいいのかと思う。4つのイメージのうちでは、イメージ2か、イメージ2の冒頭にイメージ4の未来へ歩む南三陸という言葉が入ってもよい。

(意見3)

イメージ4がすごく分かりやすく感じていいと感じた。いのちめぐるまちというのを今まで使ってきたので、これから新たなステージに南三陸が歩いていくというところもイメージが伝わりやすいし、まちづくりの理念とつながることで、より分かりやすいかと思う。

(意見4)

町外の方々からすると「森里海 いのちめぐるまち」というのは難しいと正直個人的には思う。4つのイメージの中では、イメージ3がよい。南三陸町は自然と共生を掲げているし、FSCやラムサールなど、そういうのを総まとめにした形としての自然というのが分かりやすいかと思う。

(意見5)

イメージ4が個人的にはいいと思う。今までずっと使ってきたものよりも新しく令和6年から

令和15年まで、別のフレーズで考えていってもいいと思う。

(意見6)

誰にでも分かりやすいのが一番かと思う。キャッチコピー的な形でやるとすれば、イメージ2かイメージ4が良いのではないか。

(意見7)

「森里海」というのは分かりにくいような気がする。

(意見8)

単純にイメージ4がずっと入ってくると個人的には思う。といった多くの意見が挙げられました。

(事務局)

結果としては、イメージ2とイメージ4が良いとの意見は挙げられましたが、審議会の中でも、将来像を決めることはできませんでした。本日の専門委員会議で皆様からの意見を取りまとめ、町長に報告したうえで、最終的に町側で「まちの将来像」を決定いたします。

それでは、順番にご意見をいただきます。よろしく願いいたします。

(委員)

イメージ3またはイメージ4がいいと思う。「未来へ歩む」という言葉については、事務局の説明があったように同義語であると感じる。「ひと」がなぜ、ひらがな表記であるのかが不思議。

(委員)

イメージ2がいい。「いのち」は繋がっていくことを意味している。この会議で話し合ったように、森を活かすことなどはすべて「いのち」に直結する。いのちあるすべてのものが未来に向かって進んで行くという意味も持っている。

(委員)

イメージ2がいい。「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」という将来像が現在使用されているが、この言葉はかなり浸透している言葉であると感じていて、次の将来像においてもこのフレーズを継承していただきたい。イメージ3やイメージ4については、どこの町でも使用しているような将来像を感じる。

(委員)

イメージ2がいい。ひとも森も里も海もいのちがめぐっていて、繋がりが連想できる。

(委員)

イメージ4がいい。強いて言えば、ひとは漢字で表すのがよい。また、「ひとと自然が」ではなく、「人・自然」という形で表記するのがよい。それらを踏まえると、「人・自然が未来へ歩む南三陸」や「人・自然が未来へつなぐ南三陸」がいいと思う。

(委員)

イメージ4がいい。新型コロナウイルスが5類に移行し、今年久しぶりに地元の行事に参加をした。先日、かがり火祭りや歌津の夏祭りにてスタッフの方々も輝いていて、それを観ている子どもや大人も輝いていて、素敵だと感じた。自然もあるからこそ、海でたくさん遊ぶことができた。それらを踏まえ、「ひとと自然が輝き」というフレーズが当てはまると感じた。

(委員)

イメージ2がいい。他の町と南三陸町の違いを強調できるのはこれしかない。このフレーズのあとに「未来へ」という言葉が付けば、なおよいと思うが長すぎるとも感じる。「自然が輝く」や「未来へ歩む」という言葉であればこの町にもありふれている。持続可能な「海 森 里 ひと」があることから、他の町と違いをはっきりさせることができるのはこのイメージだし、町民にも浸透している。

(委員)

イメージ2がいい。他の委員と同じ理由。南三陸町が将来目指していく姿が循環型社会であるとすれば、これはよい言葉である。

(委員)

イメージ4がいい。もし「未来へ歩む」という言葉が同義語であるとすれば、「ひとと自然が輝き未来を作るまち南三陸」というフレーズはどうか。

(委員)

その意見を踏まえると、「ひとと自然が輝く未来を作るまち南三陸」がよいのではないか。

(委員)

イメージ2がいい。南三陸を表す言葉だと感じる。廻館工区の田んぼアートにも「森 里 海」という言葉を使用したけど、地域にも浸透していて良い言葉だと思う。

(委員)

イメージ2がいい。将来のあるべき姿を現している。「ひとと森里海」といった自然があつてこそその南三陸町である。外の人に分かりやすいかどうかというのはあまり重要ではない。観光協会の職員にも、現在の町の将来像である「森 里 海 ひと いのちめぐるまち南三陸」を答えることが出来るので、これを踏襲した形で掲げてもらいたい。

(事務局)

ありがとうございます。将来像については、皆様のご意見を踏まえて、庁内で協議を行い、町で決定をさせていただくという流れで進めさせていただきます。

最後になりますが、今後の予定について説明いたします。9月の中旬に庁内各課と個別の政策に関するヒアリングを行う予定としております。時期は未定ですが、9月の下旬に第6回の専門委員会会議を開催する予定としております。

以上を持ちまして、第5回専門委員会会議を終了いたします。お疲れ様でした。

午後 7 時終了